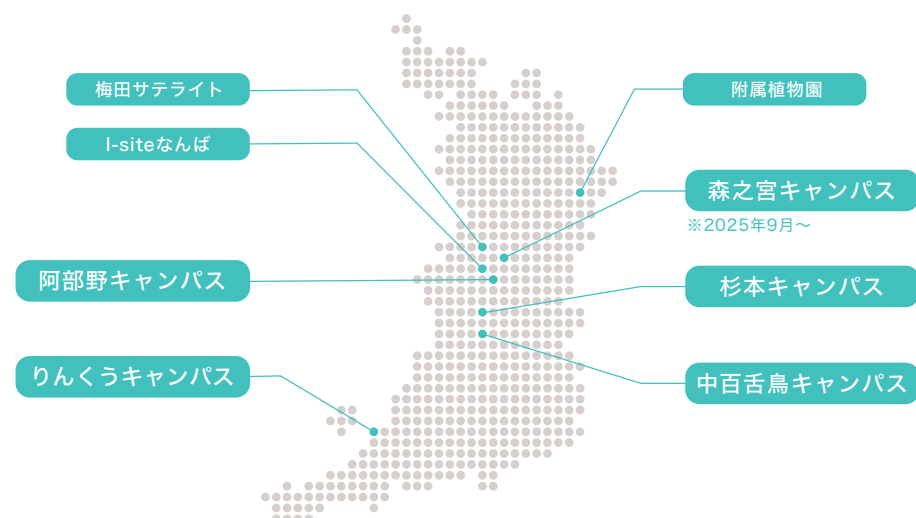


キャンパス・拠点紹介



大阪公立大学・高専基金(OMU基金)

大阪公立大学・高専基金は大学・高専の財政基盤を長期的に支え、教育、研究、社会貢献等に関する事業を一層充実させることを目的に設立されました。

大阪公立大学・高専基金へのご寄附によるご支援は、寄附者ご自身が寄附目的を選択して寄附することができるようになっています。大阪国際感染症研究センターをはじめ様々な事業を選択して支援することができます。皆様からの支援をお待ちしています。

※2024年4月1日の寄附より、寄附額の10%を管理的経費として頂戴します。

寄附の目的

特定プロジェクト

⑨-2 大阪国際感染症研究センターの研究推進のために

アカデミアの知を集結して、大阪の感染症対策を支える拠点形成をめざします。



手続きはこちら



<https://www.omu.ac.jp/oircid/fund/>

税制優遇について

個人や法人の皆様からのご寄附につきましては、税制上の優遇措置を受けることができます。本学が発行した「寄附金受領証明書」は確定申告時に必要な書類となりますので、大切に保管してください。

1. 個人の場合

- ふるさと納税制度を活用したご寄附
寄附金のうち2,000円を超える部分について、一定の限度額までは所得税及び個人住民税が全額控除されます。
詳細は大阪府Webサイト(税の控除制度について)をご覧ください。
- 直接のご寄附
- (1) 所得税について
総所得金額等の40%を上限とする寄附金額について、2,000円を除いた額が所得額から控除されます。
- (2) 住民税について
大阪府にお住まいの方は、寄附金額(総所得金額等の30%を上限とする)に対して、税額控除が受けられます。
大阪府(大阪市・堺市を除く)にお住まいの方は(寄附金額－2,000円)×4%に相当する額(大阪府4%)
大阪市・堺市にお住まいの方は(寄附金額－2,000円)×10%に相当する額(大阪府:2%＋大阪市・堺市:8%)

2. 法人の場合

法人税法第37条第3項第2号により、全額を損金算入することができます。
詳しくは文部科学省Webサイト（寄附金関係の税制について）をご覧ください。

大阪公立大学
際感染症研究センター

Osaka International Research Center for Infectious Diseases



学長・センター長ごあいさつ



学長
櫻木 弘之

大阪公立大学は、140年以上の歴史と伝統を受け継ぐ大阪市立大学と大阪府立大学が統合し、2022年4月に誕生した日本最大の公立総合大学です。本学は人文社会系、理工系、医療生命系に至る広範な学術領域に15の大学院研究科を持ち、各分野で高度な専門知が集積されています。世界がボーダレスに繋がる現代社会においては、新型コロナウイルス感染症のパンデミックに象徴される、多層的・複合的要因をもつ社会課題に対しては、多様な専門分野の研究者が連携し、多角的・俯瞰的視点から問題の本質を見極め、根本的な解決策を見出す努力が求められます。

「大阪国際感染症研究センター」は、本学の多様な研究分野の専門家が結集し、行政や民間とも連携しながら、包括的視点に立つ感染症対策を検討し提言する研究拠点として設置しました。大阪の公衆衛生対策の強化と専門人材の育成にも取り組み、国際的視座に立ち、持続可能でwell-beingな未来社会の構築に貢献する研究拠点として、本学に期待されている「都市シンクタンク機能」の一端を担って参りたいと思います。



大阪国際感染症研究センター
センター長
掛屋 弘

2019年末に発生した新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、医療がひっ迫したのみならず、経済は減速、失業率が上昇し、学校では教育機会が失われました。このように感染症の流行は社会的影響が極めて大きな疾病であることが判明しました。従来の感染症研究は「微生物と宿主」という個人や特定の微生物単位で病気を研究する「ミクロ感染症学」が中心でしたが、これからの感染症研究は、感染症を単なる個人の病気ではなく「社会の病気」であることを認識し、医学を中心とした生命科学の研究のみではなく社会科学分野も包含し、学際領域を統合した大きな学問単位での研究を行うことが求められます。

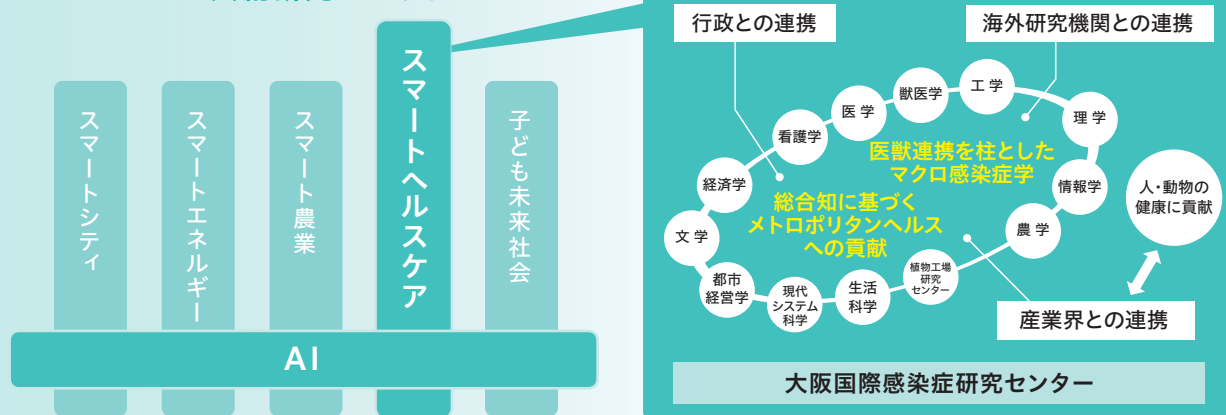
本センターは、大阪公立大学の総合知を活かした様々な分野の専門家が集い、大阪府や大阪市、大阪健康安全基盤研究所、企業とも連携した異分野融合型の「マクロ感染症学」を実践する拠点です。大都市大阪が抱える感染症対策「メトロポリタンヘルス」の課題に取り組んでまいります。

大阪ひいては広く国内外の感染症対策について、科学的根拠を国際的見地からも提供するとともに、高度な知識及び技術を修得した感染症対策に携わる人材の育成をめざします。

イノベーションアカデミーの共創研究ユニットとして

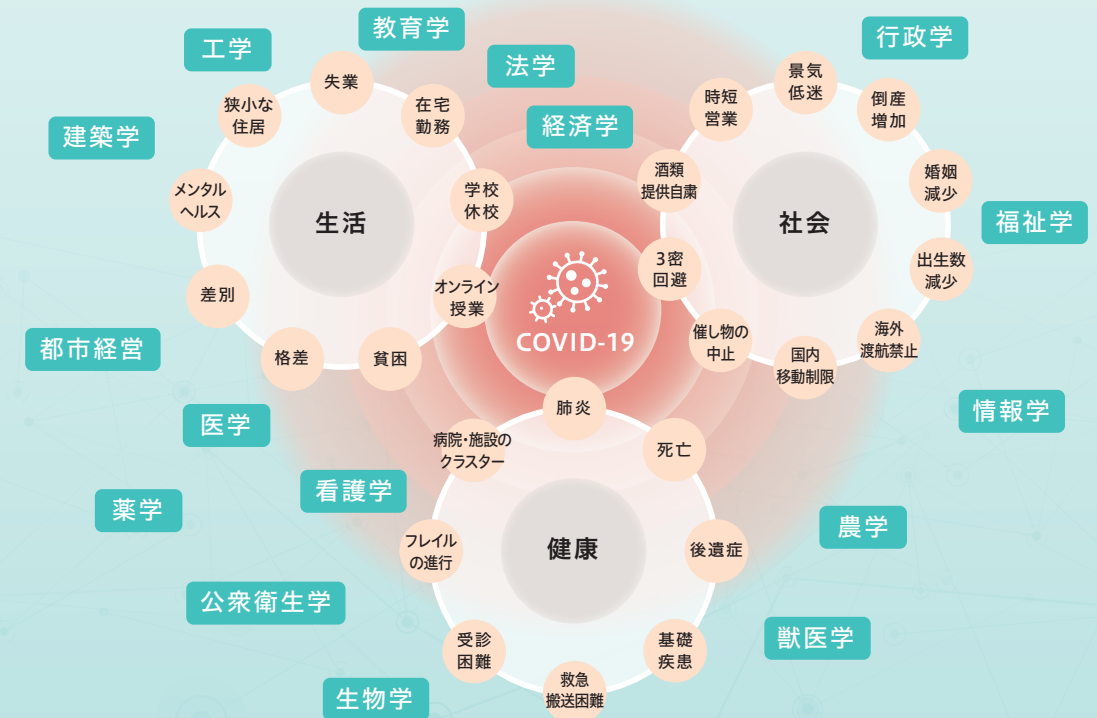
大阪国際感染症研究センターは、本学イノベーションアカデミー事業の共創研究ユニットの1つです。イノベーションアカデミー事業では、産学官民が課題を共有し、課題解決のためのプロジェクトをデザインし、その推進において「リビングラボ」として社会実装に向けた実証実験を繰り返し新しい価値の創造と、新しい社会に向けた提案を生み出します。

5つの共創研究ユニット+AI



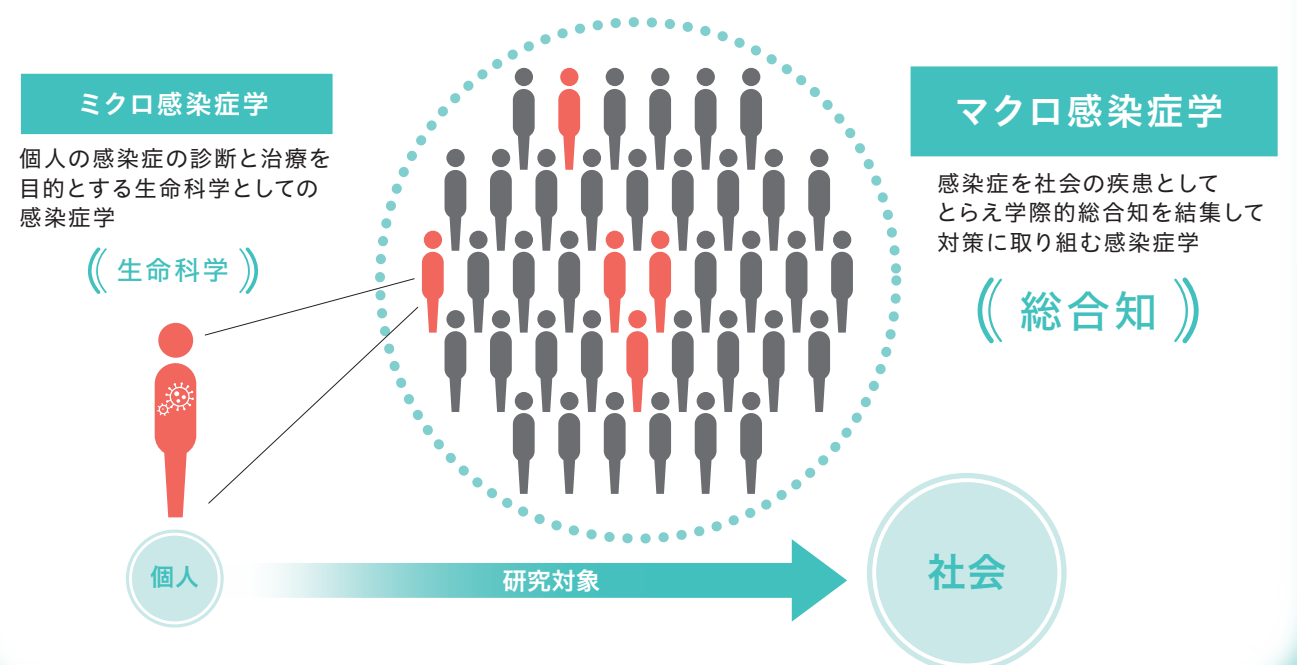
感染症学のこれから

新型コロナウイルス感染症のパンデミックがもたらした教訓



感染症は個人の健康のみならず社会や人々の生活にもダメージを与える

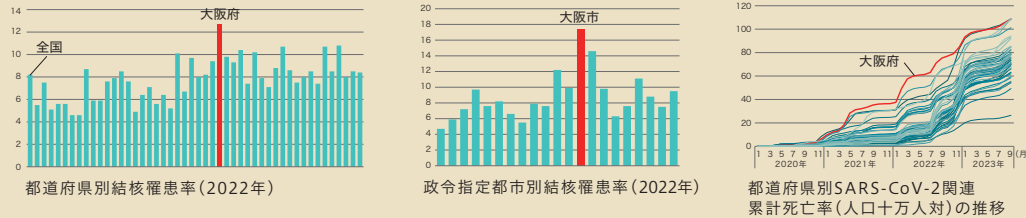
感染症研究は個人から社会へ ミクロ感染症学からマクロ感染症学へ



大阪国際感染症研究センター（OIRCID）について

01 感染症に関する大阪の課題

大阪府は他の都道府県に比べて、結核の罹患率や新型コロナウイルス感染症関連の死亡率が高く、感染症に関して多くの課題が存在する。感染症に対する課題は個人の疾患としてだけではなく、社会の問題とも深く関連していることが結核の研究からも明らかにされ、加えて新型コロナウイルス感染症の社会的な影響をみても明らかである。さらに大阪府は日本を代表する国際的な観光都市でもあり、感染症の国外からの流入にも備えなければならない。



大阪国際感染症研究センターの研究は“国際都市大阪の感染症に強いまちづくり”を目指します。

02 OIRCIDの役割とねらい

役割

大阪府・市の
都市シンクタンク機能を発揮

大阪の公衆衛生体制強化・
感染症に強いまちづくり

センターの機能

- 科学的エビデンスに基づく政策支援・提言機能
- 国際的な視野での研究・教育機能

産学官連携による
感染症研究を推進

大阪に定着する
医療人材を育成

ねらい

新規学問領域のマクロ感染症学の確立

個人や特定の微生物を対象とする感染症学ではなく、社会の疾病としての感染症にアプローチする新規学問領域を確立する。

大阪府・市と直結した政策支援・提言

アカデミアとして全国で初めて、平時・有事の双方において、設置者である大阪府・市の感染症危機管理行政を支援する役割を担う。

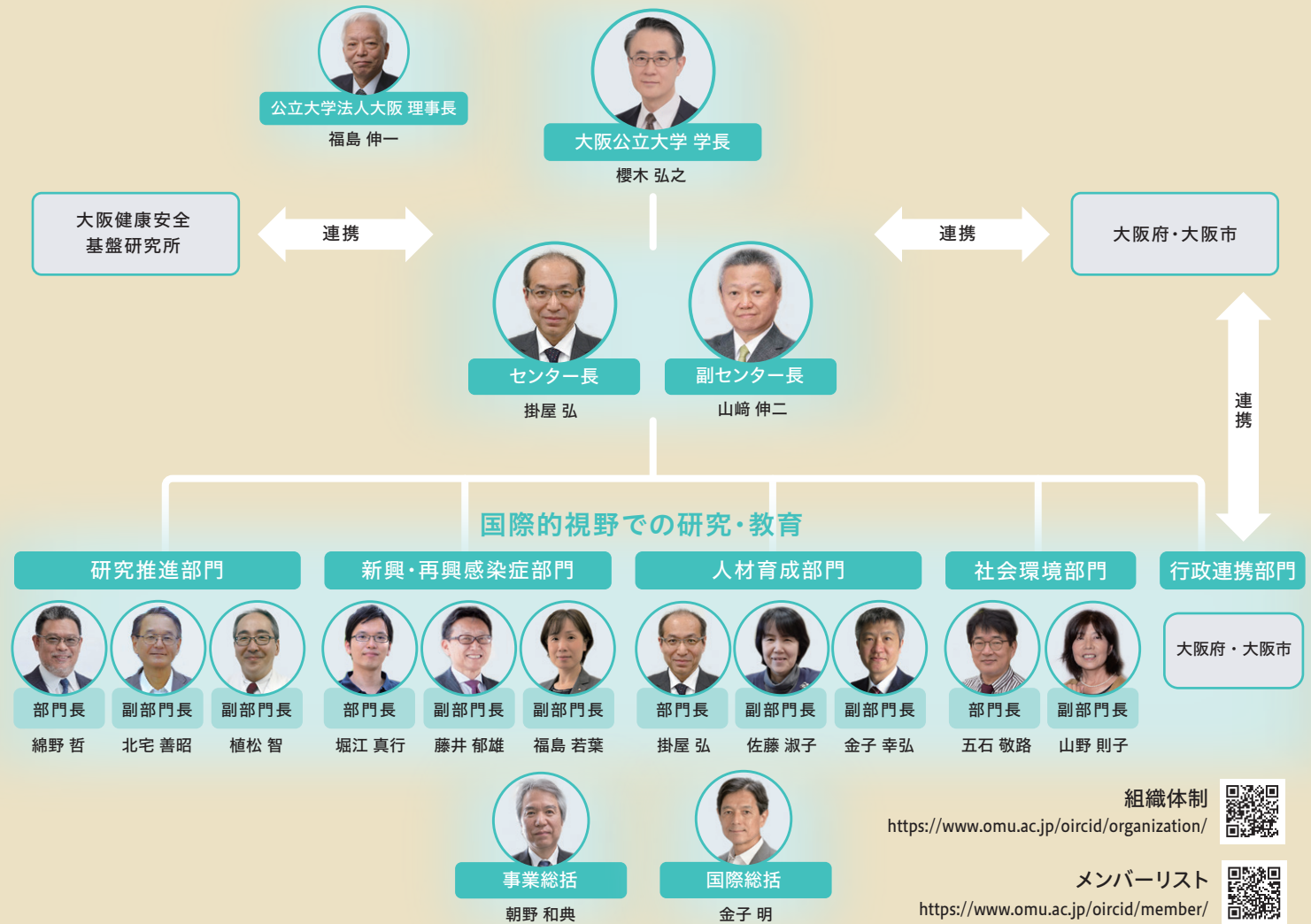
産学官連携・総合知による学際的な研究体制

大学のダイバーシティと共創を活用することによって、産業界、行政とも連携したオール大阪の「総合知の結集」を図り、「最適解」を導き出す。

医学・獣医学の連携

近畿地方で唯一、医学部と獣医学部の両学部を有する本学で、今後警戒が必要な新興感染症・人獣共通感染症に関して、医獣連携を柱とした世界をリードするユニークな研究を展開する。

03 OIRCIDの組織



04 OIRCIDの目指す活動

感染症対策に資する「基礎・応用研究」「専門人材の育成」「医療技術開発」とともに、感染症流行時における社会的脆弱性の克服・支援を行う

マクロ感染症学の立場から、感染症を社会の疾患ととらえ、貧困、差別、格差を根絶する解決法の確立を“社会の予防・治療”として行う

テーマ

感染経路の遮断法開発

ワクチンや治療薬の開発

人獣共通感染症の監視

宿主・病原体免疫反応の解析

ゲノム解析による病原体の検出・追跡

国際的に活躍できる感染症研究の人材育成

感染症専門医療職人材の育成

感染症実地疫学調査チームの養成

府民・市民への啓発と情報発信

AIとビッグデータを駆使した疫学研究

感染予防対策の効率化の検証

都市の緑化や公園による疾病予防・健康増進

感染症が及ぼす社会的影響の可視化・検証

感染リスクを高める社会経済的な要因の分析

研究成果に基づく政策支援・提言に向けた連携支援

研究推進部門 感染症の診断法、治療法や予防法開発につながる先端研究

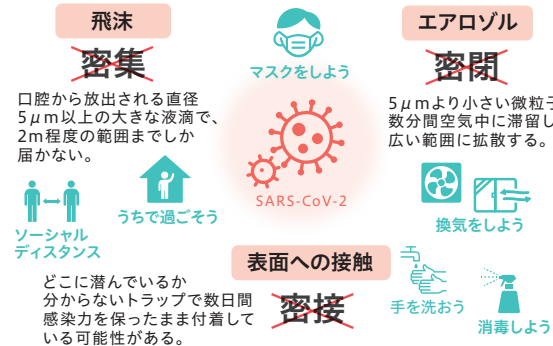
部門長：綿野 哲(工学研究科) 副部門長：北宅 善昭(研究推進機構)、植松 智(医学研究科)

<https://www.omu.ac.jp/oircid/research/promotion/>

ポストコロナでも耐性菌や新しいウイルスなど、感染症の原因となる微生物は確実に進化している。

感染経路の遮断法開発

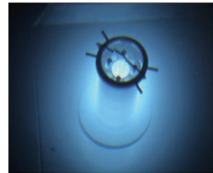
感染症拡大の原因と三密とは？



光触媒を用いた小型静穏な飛沫除去装置の開発(秋吉、綿野)

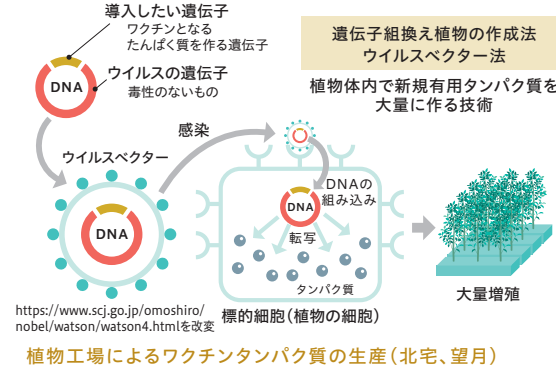


紫外線消毒法の高度化、標準化(秋吉、古田、朝田)



放射線による殺菌、滅菌(古田、朝田)

ワクチンや治療薬の開発



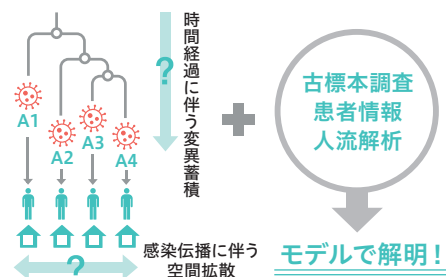
ファージ療法の開発(植松)

新興・再興感染症部門 感染症の流行予測・探知、病原体の病原性、感染力、感染経路の迅速な解明や治療・予防法構築に関する研究

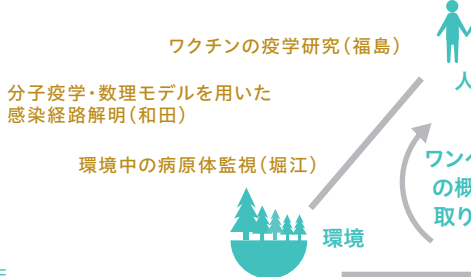
部門長：堀江 真行(獣医学研究科) 副部門長：藤井 郁雄(研究推進機構)、福島 若葉(医学研究科)

<https://www.omu.ac.jp/oircid/research/infection/>

ゲノム解析による病原体の検出・追跡



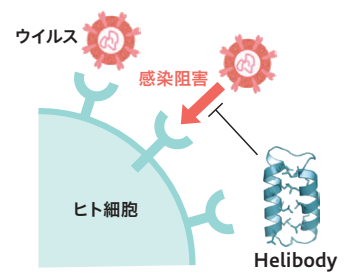
宿主・病原体間相互作用の解析



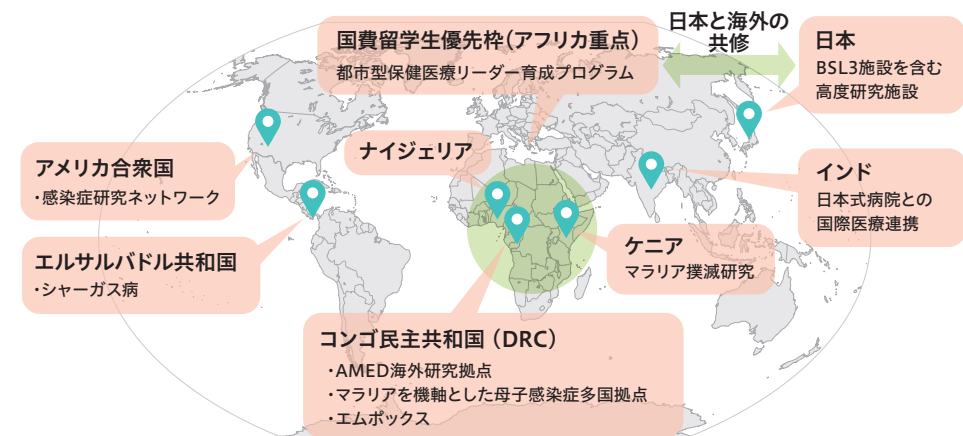
人獣共通感染症の監視



ワクチンや治療薬の開発



分子標的ペプチド“Helibody”によるウイルス感染阻害・診断(藤井)



地球規模トランスレーショナルリサーチ(城戸)

人材育成部門 感染症にかかわる国際的視野を有した医療、福祉、行政専門人材の育成

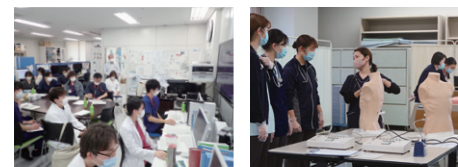
部門長：掛屋 弘(医学研究科) 副部門長：佐藤 淑子(看護学研究科)、金子 幸弘(医学研究科)

<https://www.omu.ac.jp/oircid/research/training/>

次なる感染症パンデミックへの準備と国際都市大阪における感染症対策を担う人材育成

- 大阪における感染症専門医と感染症看護専門看護師不足の解消
- 大阪における国際化・マスコギャザリングに関する輸入感染症や大都市特有の感染症への対応
- 大阪における府民・市民への分かりやすいシームレスな感染症教育

感染症専門医療職人材の育成



感染症専門医・感染症看護専門看護師の育成

感染症実地疫学調査チームの養成



国際的活動ができる人材育成

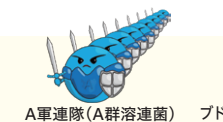
府民・市民への啓発



感染症対策の情報発信



ハイエンキューキン王(肺炎球菌)



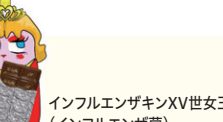
A軍連隊(A群溶連菌)



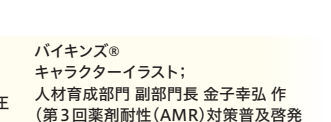
ブドウキューキン(黄色ブドウ球菌)



ダイチョーキン(大腸菌)



インフルエンザキンXV世女王(インフルエンザ菌)



バイキンズ®キャラクターイラスト; 人材育成部門 副部門長 金子幸弘 作 (第3回薬剤耐性(AMR)対策普及啓発活動表彰にて文部科学大臣賞受賞)

オリジナルキャラクターを使ったわかりやすい情報発信

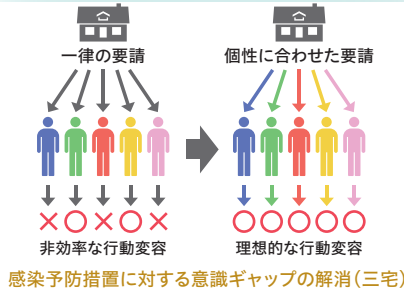
感染症に強い都市・大阪の「メトロポリタンヘルス」に貢献する人づくり!

社会環境部門 感染症が及ぼす社会的影響やセーフティネットの構築に関する研究

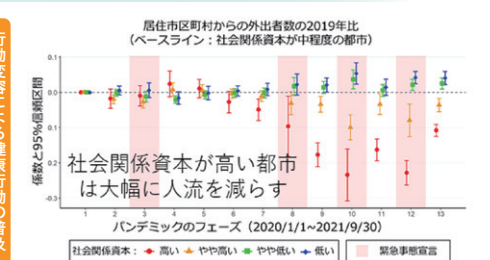
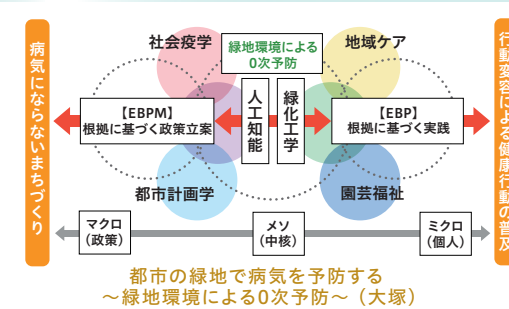
部門長：五石 敬路(都市経営研究科) 副部門長：山野 則子(現代システム科学研究科)

<https://www.omu.ac.jp/oircid/research/social/>

感染予防対策の効率化の検証

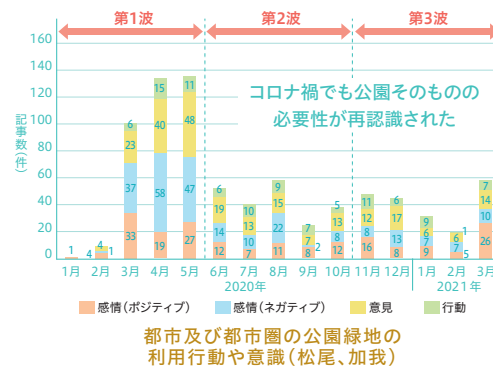


AIとビッグデータを駆使した疫学研究

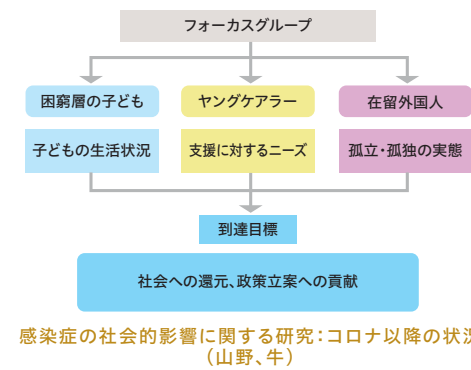


パンデミックにおける社会関係資本の役割(黒田)

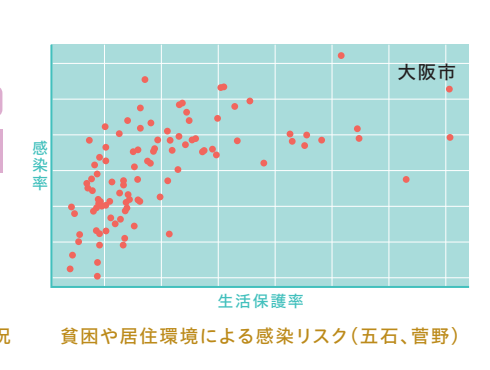
都市の緑化や公園による疾病予防・健康増進



感染症が及ぼす社会的影響の可視化・検証



感染リスクを高める社会経済的な要因の分析



行政連携部門 感染症に強いまちづくりと科学的なエビデンスに基づく政策支援に向けた産学官研究連携

部門長・副部門長：大阪府・大阪市(担当: 副首都推進局)

<https://www.omu.ac.jp/oircid/research/cooperation/>

研究成果に基づく政策支援・提言に向けた大阪府・市関係部局との連携支援

府民・市民への発信